

研 究 論 集

音 楽 学 部 篇

第 二 十 三 卷

前 卷 目 次

第 二 十 二 卷

真宗における往生浄土の目的	岡 邦 俊	一	右から
芥川龍之介「西方の人」注解(四)	吉 野 孝次郎	一	
昭和49年度音楽学ワールド・ワーク調査研究報告	中 野 恵 海	一	
遠江小国神社に伝承される十二段舞楽について ——太平楽舞を中心として——	小 野 功 龍	二	
トリスタン伝説とゴットフリート・フォン・シュトラースブルフ	齋 藤 芙美子	四	
平家物語と修羅能について(二)	三 谷 幸 子	五	
江戸時代の帯の研究	森 山 和 美	六	
△ウィング音楽テストVによる 音楽能力・学力の分析(その2)	酒 川 井 圭 子	六	左から
立体構成における構造線とデザインとの関係	神 野 美 年 子	七	
Utilization of oils by a strain of <i>Candida tropicalis</i>	岩 佐 野 美 年 子	七	
主な成人病に関連があると思われる食事について	小 原 国 彦	三	
体育科成績の向上に関係する要因分析	村 上 裕 子	四	
学校令直後の女子教育論について ——大日本教育会雑誌に関連して——	長 野 孝 男	五	
	永 田 千 恵 子	六	

編 集 後 記

本研究論集は、発刊以来前巻（第22巻）に到るまで、相愛女子大学、相愛女子短期大学の学部・学科を通じて、一冊にまとめて発行されて来た。今次編集委員会は、現下諸般の事情を考慮して慎重に検討協議の上、各教授会の諒承を得て、本巻（第23巻）より「音楽学部篇」、 「国文・家政学科篇」の二冊に分冊して刊行することに改めた。

学部・学科の専門領域以外の論文（一般教育・外国語・保健体育・教職課程関係）については、執筆者の関連に応じてそれぞれ何れかの篇に割ふった。併し、編集委員会の構成は両大学を通じて一体として運営し、また誌名は従来の形式にのっとり、「相愛女子大学
相愛女子短期大学研究論集」として統一し、巻数もそれを継承することとした。

なお、前委員会の方針をうけついで、両篇ともに彙報の類を一切除き純論文集の体裁をととのえた。

編 集 委 員 (五十音順)

酒 井 諄 (委員長)

鈴 木 国 夫

別 所 成 紀

長 野 孝 男

森 本 茂

渡 辺 正